

井の頭池 カメ新聞

NPO 法人 生態工房

2009年12月10日 発行

167-0054 杉並区松庵3-38-14-2D
電話・ファクス :03-3331-5004
http://www.eco-works.gr.jp/
この活動は真如苑『Shinjoプロジェクト』
市民活動公募助成の支援を受けています。

RE70 この紙は再生紙を使用しています。

井の頭池の危機!?

武蔵野三大湧水池のひとつである井の頭池は、かつては豊富な湧水によって多様な動植物が生息している豊かな水辺でした。しかし近年では、公園周辺の開発によって湧水は絶え、植物プランクトンの発生などによる水質悪化の影響で多くの動植物が絶滅したり、絶滅の危機に陥っています。また、モラルのない人によって捨てられたペットや意図的に導入された外来生物が野生化し、池で繁殖しています。これらの外来生物は池の在来生物を捕食したり、餌や生息環境を奪ったりして、在来生物をさらに追い詰めています。

カメ調査 by 生態工房

私たち生態工房は、井の頭池の外来カメ類の生息状況を把握するために、1999年、2008年、2009年の3回にわたってカメの生息数や個体の成長量を調査しました。ここに2009年の調査結果をまとめてお知らせします。

どうやって調べたの？

2009年8月下旬～9月中旬の計13日間、ボートで池に出て、ワナを使ってカメを捕まえました。捕まえた個体は、種類、雌雄、大きさ、年齢、個体標識などを調べました。記録後は、在来のカメは池に戻し、外来のカメは駆除しました。

*調査は東京都西部公園緑地事務所の許可を得て行いました。
通常、池への立ち入りや動植物の採取はできません。



在来種は3種を確認

本来この地域に分布している在来種はニホンイシガメ、クサガメ、スッポンの3種類です。調査によって、井の頭池にはこの3種すべてが生息していることがわかりました。しかしニホンイシガメは6個体しか確認されず、幼体(子ガメ)も発見されなかったため、現在は繁殖していない可能性があります。このままでは井の頭池から絶滅してしまうかもしれません。



ニホンスッポン

22個体を確認。幼体も見付き、繁殖していることがわかりました。養殖個体や中国産の個体が捨てられて在来個体と交雑している可能性もあります。
環境省レッドリスト選定種
東京都レッドリスト希少種



ニホンイシガメ

6個体を確認。個体数がとても少なく、幼体が見付きませんでした。個体群の存続が心配されます。日本固有種。
環境省レッドリスト選定種
東京都レッドリスト絶滅危惧種



クサガメ

139個体を確認。在来種では最も多く捕獲され、1歳から10歳以上まで、さまざまな年齢の個体が見付きました。今のところ個体群は安定的に維持されていると思われます。
東京都レッドリスト希少種

在来種

井の頭池で最も多いカメは

外来種 ミシシippアカミミガメ

外来種は全部で7種・亜種を確認しました。なかでもミシシippアカミミガメはカメ類のなかで最も個体数が多く、10年以上前から繁殖によって個体数が増えていたことがわかりました。その他の外来種は個体数が少なかったため、現段階ではまだ繁殖によって増加していないと思われます。しかし、今回の調査では在来種クサガメと外来種ミナミイシガメとの交雑個体が確認されています。現段階では少数しかいなくても、交雑による遺伝的攪乱が心配されています。



外来種

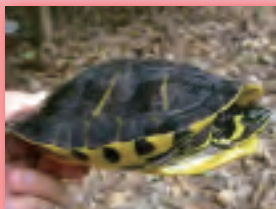
ミシシippアカミミガメ (ミドリガメ) 要注意外来生物

185個体を確認。1歳から10歳以上まで、さまざまな年齢の個体が見付きました。人間によって捨てられたペットのミドリガメがこの池で野生化し、繁殖によって個体数が増えていったと思われます。現在では、井の頭池のカメ類の中で最も個体数が多い種になってしまいました。

捕獲されたカメの半数は外来種だった!



ミシシッピアカミミガメ
要注意外来生物
185個体を確認。



キバラガメ
要注意外来生物
3個体を確認。
アカミミガメの基亜種。



ミシシッピチズガメ
要注意外来生物
3個体を確認。



カミツキガメ
特定外来生物
1個体を確認。



クサガメ×ミナミイシガメ
1個体を確認。在来種クサガメと外来種ミナミイシガメの交雑によって生まれた個体。

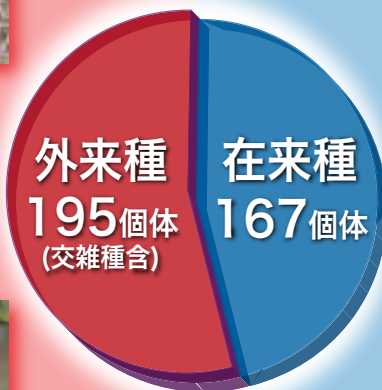


ミナミイシガメ
1個体を確認。本来は八重山諸島に分布。



コンキンナヌマガメ
要注意外来生物
1個体を確認。

捕獲されたカメの
個体数の割合



外来生物が増えると
ボクたちはどうなるの?

外来生物は在来生物の食べ物や生活場所を奪ってしまいます

在来生物たちは長い年月をかけて「食う・食われる」「住みかを分ける」「食べものを分ける」といった、相互に複雑な関係をつくってきました。こうした生物どうしの関係が地域に固有の生態系をつくり、在来生物たちはこの関係のなかでバランスを保ちながら子孫を残してきました。

しかし、人間が新たに連れてきた外来生物は、在来生物の食べ物や生活場所を奪い、在来生物どうしの関係をこわしてしまいます。本来その地域にあった生態系のバランスが崩れることによってさまざまな在来生物が子孫を残せなくなり、絶滅する可能性があります。

ペットを
野外に捨てないで



日本固有の生態系を
守るために

井の頭池 ミニ水族館を開催しました



調査中に捕れたカメや魚たちをタライや水槽に入れて展示し、池の岸辺に屋台風のミニ水族館をつくりました。多いときは1日1000人以上がミニ水族館を訪れました。たくさんの人たちが在来・外来の水生生物を間近で観察したり、井の頭池でおこっている外来生物問題を実感しました。

あなたのご支援をお待ちしております!



生態工房は、井の頭池をはじめとする武蔵野三大湧水池で、地域本来の水辺と在来生物をまもる活動を行っています。これらの活動は、武蔵野の自然を愛する地域の皆さまの寄付で支えられています。

■武蔵野の水辺保全活動に寄付する
(郵便振替) 00110 - 0 - 74547
特定非営利活動法人 生態工房

■携帯サイト「マチウケル!」で画像を買う
当会が提供する携帯電話の待ち受け画像を買うと、売上の一部がこの活動に寄付されます。ニホンイシガメの赤ちゃんやカワセミのかわいい画像をご覧ください!

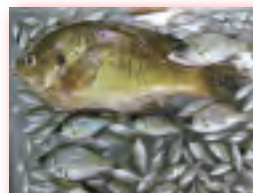


外来生物はカメだけじゃない!

外来魚

井の頭池の外来生物はカメだけではなく、ブルーギルやオオクチバスなどの外来魚類もたくさん生息しており、繁殖もしています。だれかが観賞魚を放流したり、池で禁止されている釣りをするために密かに外来魚を持ち込んでしまいました。井の頭池に生息している魚の97.6%は外来種*でした。今回の調査で捕獲された外来魚はすべて駆除しました。

*2007~2009年『井の頭かんさつ会』調べ



ブルーギル
特定外来生物



オオクチバス
特定外来生物